

## 5 本調査の結果と期待される効果

### 5.1 本調査の結果

周辺地域を中心として、「お遍路及びモデル地域の現状調査」「連携・協働による広域的な景観形成・保全の課題整理及び取組指針案の策定」「取組指針(案)に基づくフォローアップの実施」を地域との意見交換や地域検討会、風景づくり交流会を踏まえ検討した。

その結果、多様な主体による活動推進に向けた課題について、以下のプロセス、意識、取組といった3つの視点から整理することができた。

#### 【プロセスの課題】

- 地域住民自身が、地域の魅力やらしさに気付く必要がある。
- 地域住民自身が、何とかしたいという思いを抱き、共有することが必要である。
- 次の世代にどのように資源や風景を残していくのか、ビジョンを描く必要がある。

#### 【意識の課題】

- 地域住民や関係者一人ひとりに、風景を守り、作り出していくことの意義を理解してもらう必要がある。
- 地域の資源に価値を見出し、それを高め自立した活動へと高めていく必要がある。
- 一過性の取組ではなく、先を見据え活動を続けていく必要がある。

#### 【取組の課題】

- 動いているのは限られたメンバーばかりであり、それぞれの活動を展開していくにふさわしい人材を確保する必要がある。
- 資金が限られている中においても、活動が動いていく仕組みが必要である。
- 活動をより効果的に推進していくための体制作りが必要である。

また、「お遍路・町並」「観光交流」「都市・中山間地域交流」の3つのテーマに即し、活動の先進地域に対する事例調査を行うことにより、「お接待」、「普請」という四国圏固有の地域文化を保全し活用するための、多様な主体が参加する実践的な「取組指針(案)」を策定した。この取組指針は、風景づくりの原則や手順を学ぶことができるものであり、風景づくりのより現実的な課題を抽出し、成功事例をもとにその課題をどのように乗り越えていったかを示すとともに、単なるアイデア集ではなく、各段階における「人の動き」に着目した内容のものとしてとりまとめを行った。

さらに、ケーススタディとして、四国八十八箇所霊場の遍路道周辺からモデル地域を選定し、具体の風景づくりに関する実情把握と、取組指針に基づく活動のフォローアップを行い、観光資源としての魅力の向上や地域づくりの支援検討を行った。

## 5.2 期待される効果

国、地方公共団体、地域住民等においてこれまでに個別で取り組まれていた活動実態が整理・把握されるとともに、地域へのアンケート及びヒアリング調査により、良好な景観や地域の歴史・文化・伝統の喪失といった現在の問題と、対策を講じなければ良好な景観等に影響を与える潜在的な問題が抽出され、問題が発生している背景や要因が体系化された。

そのような実態を踏まえた上で、四国各地における景観・風景づくりの気運を高め、行動・活動を促進していくための「取組指針」が策定された。

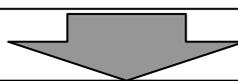
四国圏では、お遍路文化に根ざした「お接待」「普請」と呼ばれる地域文化があり、これまでもお遍路道周辺の景観等の維持や保全において大きな役割を果たしてきた。また、これらの地域の活動は、四国におけるまちやむらの美しい景観保全の基盤としても重要な役割を果たしてきた。

これらの地域性を活かし、四国圏広域地方計画においては、「美しい風土を形成し、地域の魅力を高める」こと、「歴史・文化的資源を継承し、地域の独自性を発揮する」ことが今後の戦略として位置づけられており、官民が連携して推進する仕組みづくりが重要課題とされている。また、「四国霊場八十八箇所とお遍路文化」を核とした地域振興プロジェクト等の推進については、四国霊場八十八箇所と遍路道を軸とする周辺地域の広域的な文化的景観形成と計画的保全が四国圏共通の重要な課題として認識されている。

そのため、この「取組指針」によって、文化的景観の形成と計画的な保全を推進する現場で抱えていた、景観形成の方針についての関係者合意や人材育成、活動資金制度等の推進体制の確立について、現実的な解決策を提供できることになる。特に、住民や民間企業は、広域的なつながりを持った活動には関心があるものの、具体的な関わり方、進め方がわからないという状況であり、「取組指針」の先進的な取組事例を通じて取組の仕組みづくりを学ぶことによって、広く官民が連携協働した計画的な取組の重要性を知り、広域的な活動を推進することが可能となる。

その結果、本調査により形成される協働の取組みづくりにより以下のような成果が期待できる。

- 四国八十八箇所霊場の遍路道周辺の地域の観光資源としての魅力の向上や地域づくりが進展し、交流人口の増大が図られるとともに、四国全体で効率的効果的な地域づくり等が展開される。
- 民間企業、住民等の景観、風景に対する意識の醸成が図られ、景観形成への理解が向上することとなり、景観法に基づく景観計画の策定など自治体の取組が活発化する。
- 「お接待」「普請」という四国圏固有の地域文化が、多様な主体の間で具体の活動を伴う形で広まる。
- お遍路道を軸とする周辺地域における具体的な景観づくりをモデル事業として推進することができる。



- 最終的に、四国4県が「四国は一つ」を合言葉に協働で提案し、取組む「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録についても重要な活動の基盤づくりとして期待できる。

なお、今後、当取組指針に基づく活動を、以下のような各種会議等を通して浸透させ、継続的にフォローアップを行うことによって、遍路道を軸とした周辺地域において、実践的な風景づくりを行う地域・団体が拡大していくことが期待される。

- 四国各地域における景観保全に関する検討会議（フォローアップ）の開催
- 遍路文化に関する検討会議の開催
- 遍路道を通じた地域連携による環境整備の検討
- 有識者やNPOを含めた活動報告会議を開催